47 エレミヤ 聖徒伝 267

主へのおそれと希望をもって

エレミヤ書50章　諸国民の裁き④　バビロンへの裁き①

Shikaoichurch.com

聖書の預言の多くは、主の厳しい裁き
主イエスの言葉は、さらに厳しい

そこから希望と励ましを得るためには？

主の計画の全容への理解を深めること!!

主へのおそれと希望をもって

❶ついに下されるバビロンへ裁き

50:1～16

❷背後に透ける終末への裁き

50:17～46

❸再臨の主を待ち望みつつ

まとめと適用

聖書引用　新改訳2017 ©2017 新日本聖書刊行会　許諾番号4-1062-2

ペルシアの浮彫

0.　イントロダクション

■イスラエルは、多くの預言者の警告も拒み、背きを重ねた。

■北王国は、BC722年、アッシリアよって滅亡。
南王国は、バビロニアによって滅ぼされた。
（バビロン捕囚・BC586）

バビロンの浮彫

前説　エレミヤ書の構成　諸国民の裁きの位置づけ

- クライマックス　…イスラエルへの裁き・バビロン捕囚
- 後日談・エピローグ　…エジプトへの寄留と裁き
- 外伝・スピンオフ　…諸国民への裁き(45～51章)
- 結び　…命運が分かれた、捕囚後の王たち(52章)

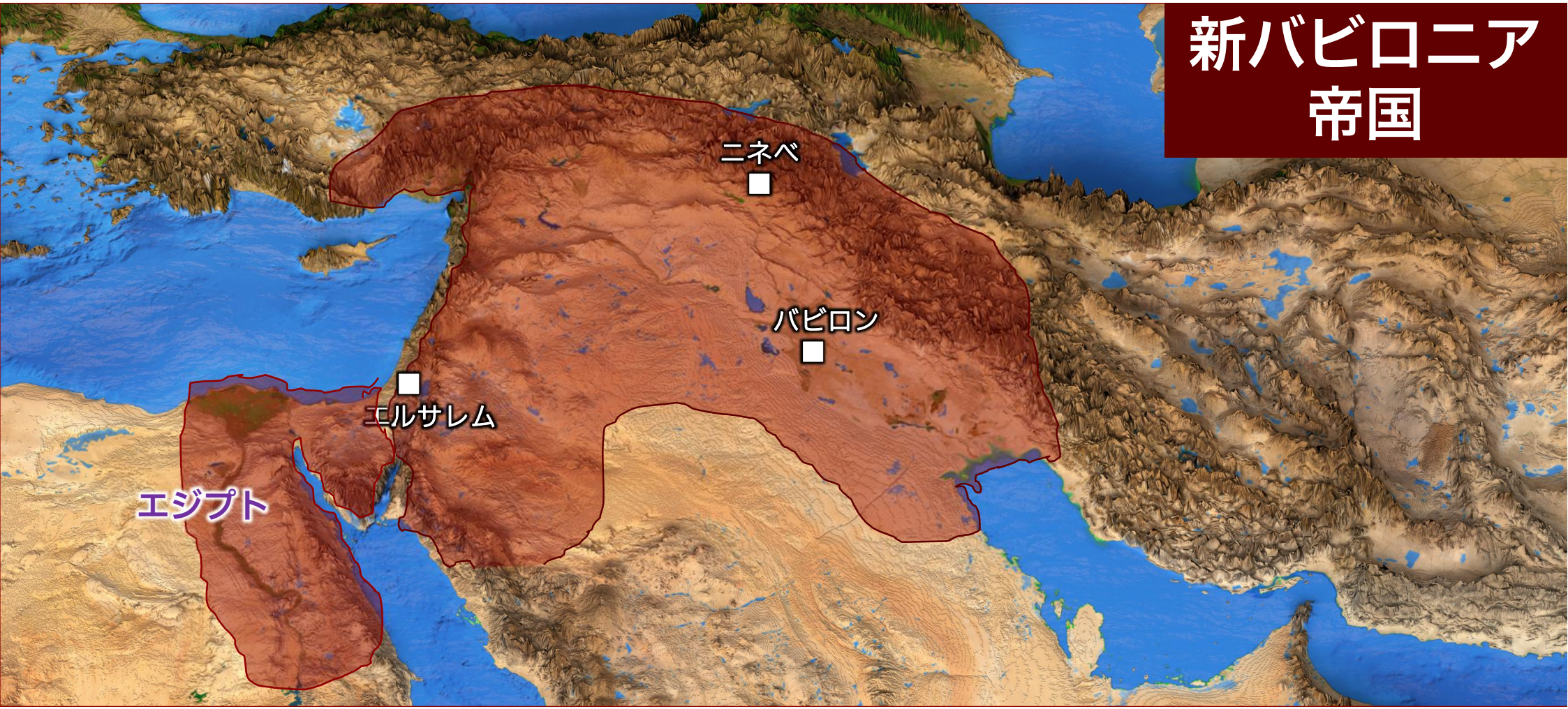
諸国民への裁きは、外伝・スピンオフ

前説　諸国民の裁きの基準

■**裁きの理由は、**①イスラエルを苦しめたこと
②彼ら自身の偶像礼拝
…唯一の神を知ったにも関わらず

■**裁きの基準は、**①イスラエルをどれだけ苦しめたか
②イスラエルとの関係の近さ

最後に、イスラエルと周辺諸国を滅ぼした、
バビロニアの滅びが2章に渡って告げられる



二代目のネブカドネツァル王は、エジプトまで勢力を拡大。
BC539、ペルシアのキュロス王がバビロン陥落、86年間で消失。

預言に重なるバビロンへの二つの裁き

シームレスでフラクタル
（つなぎ目がなく、相似形）

預言に重なるバビロンへの二つの裁き

南北時代

❶直近の苦難

メシア初臨

バビロン①

❷主の日大患難時代

❸回復

メシア再臨

バビロン②

❶ついに下されるバビロンへの裁き　エレミヤ書50章1～16節

ユーフラテス川とバビロン

❶主の裁き　バビロンへ　50:1

【主】が預言者エレミヤを通して、バビロンについて、すなわちカルデア人の地について語られたことば。

■諸国への裁き、その最後がバビロニア。

➡バビロン捕囚以前の主の預言

バビロンへの裁きの預言は、イスラエルにとっては解放の宣告

❶主の裁き　バビロンの陥落　50:2～3

「国々の間に告げ、旗を掲げて知らせよ。隠さずに言え。『バビロンは攻め取られた。ベルは辱められ、メロダクは打ちのめされた。その像は辱められ、その偶像は打ちのめされた。』

まことに、北から一つの国*がそこに攻め上り、その地を荒れ果てさせた。そこには住むものもない。人から家畜に至るまで逃げ去った。

- ベル、メロダク…主要都市
- ＊ペルシアによるバビロン陥落（BC539）

バビロン遺跡・ライオン像

❶主の裁き　神の民の解放　50:4～5

その日、その時――【主】のことば――イスラエルの民もユダの民も、ともにやって来る。彼らは泣きながら歩みつつ、その神、【主】を尋ね求める。

彼らはシオンを求め、その道に顔を向けて言う。『さあ、私たちは【主】に連なろう。忘れられることのない永遠の契約*によって』と。

＊アブラハム契約。

■バビロン捕囚からの解放が予告。

民は解放され、バビロンには裁きが下る

❶主の裁き　過去の苦難　50:6～7

わたしの民は、迷った羊の群れであった。その羊飼いたちが彼らを迷わせ、山々へ連れ去った。彼らは山から丘へと行き巡り、休み場も忘れた。

彼らを見つける者はみな彼らを食らい、彼らの敵は言った。『私たちには責めはない。彼らが、義の住まいである【主】、彼らの先祖の望みであった【主】に対して罪を犯したためだ』と。

■偶像礼拝がバビロン捕囚を招いた。

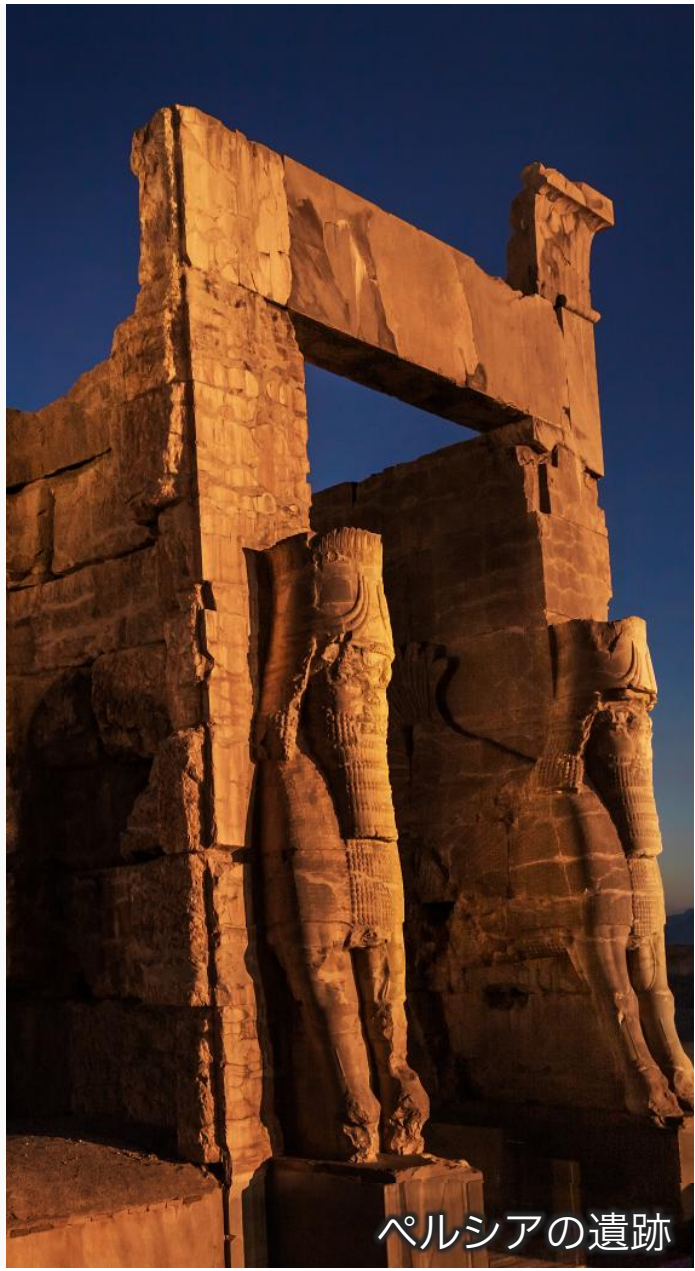
❶主の裁き　ペルシアの侵略　50:8～10

バビロンの中から逃げ、カルデア人の地から出て行け。群れの先頭に立つやぎ*のようになれ。

見よ。わたしは、大国の集団を奮い立たせ、北の地からバビロンに攻め上らせる。彼らはこれに向かって陣備えをし、バビロンはそこから攻め取られる。彼らの矢は熟練した勇士の矢のようで、空しくは帰らない。

カルデアは略奪され、これを略奪する者はみな、満ち足りる。――【主】のことば。

＊混合の群れでは、やぎが羊の先導役に。


ペルシアの遺跡

❶主の裁き　略奪の報い　50:11～12

わたしのゆずりの地*を略奪する者たちよ。おまえたちは楽しみ、喜び躍り、打穀する雌の子牛のようにはしゃぎ、荒馬のよういななくが、おまえたちの母はひどく恥を見、おまえたちを産んだ者は屈辱を受ける。見よ。彼女は国々のうちの最後のものとなり、荒野となり、砂漠と荒れた地となる。

＊イスラエルの約束の地

■捕囚でイスラエルを苦しめたバビロンについに神の裁きが下る。

打ち崩れたバビロンのジグラッド

❶主の裁き　バビロンの壊滅　50:13

【主】の御怒りによって、そこに住む者はなく、ことごとく廃墟と化す。バビロンの近くを通り過ぎる者はみな呆気にとられ、そのすべての打ち傷を見て嘲笑する。

■バビロンの最盛期はこの時代。
　現在も、遺跡の多くは野ざらしに。

■大艱難時代に、反キリストが再建。

バビロンの遺跡

❶主の裁き　主の復讐　50:14～15

すべて弓を引く者よ。バビロンの周りに陣備えをし、これを射よ。矢を惜しむな。彼女が【主】に対して罪を犯したからだ。

その周りで、ときの声をあげよ。彼女は降伏する。その柱は倒れ、その城壁は壊れる。これこそ【主】の復讐だ。彼女に復讐せよ。彼女がしたとおりに、これにせよ*。

＊神の報復の原則。目には目を(出21:24)

■バビロンは、すべての罪の報いを受ける。

バビロンの浮彫

❶主の裁き　帝国の崩壊　50:16

種を蒔く者や、刈り入れの時に鎌を取る者を、バビロンから断ち切れ。虐げる者の剣を避けて、人はそれぞれ自分の民のもとに帰り、自分の土地へ逃げて行く。」

■労働力としていた諸国からの捕囚民が、皆、故郷へ逃げ帰っていく。

➡国を支える農業の担い手もなくなりバビロンは国の基盤から崩壊。

バビロンの遺跡

❷背後に透ける終末の裁き　エレミヤ書50章17～46節

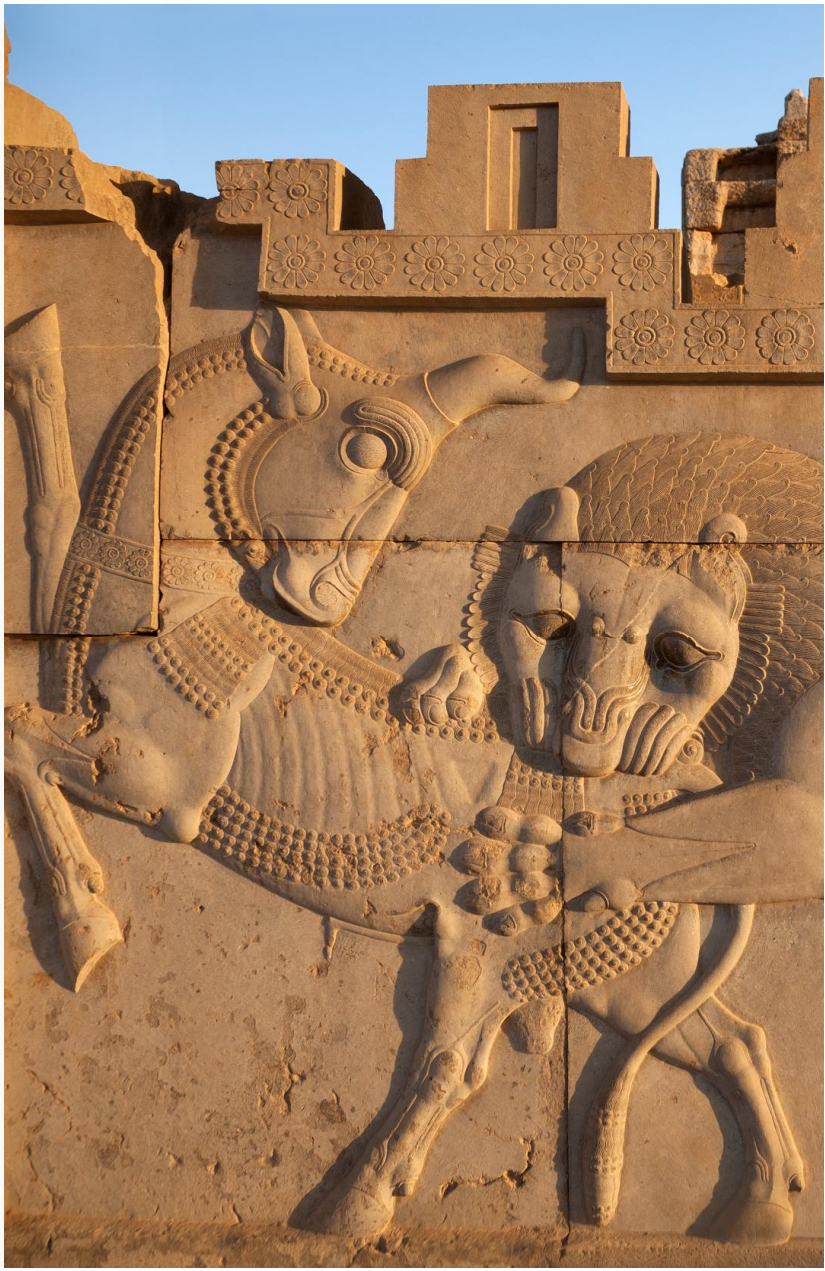
荒廃したバビロン

❷透ける終末　神の罰　50:17～18

イスラエルは雄獅子に散らされた羊。先にはアッシリアの王がこれを食らい、今度はついに、その骨をバビロンの王ネブカドネツァルが食らった。

それゆえ、イスラエルの神、万軍の【主】はこう言われる。「見よ。わたしはアッシリアの王を罰したように、バビロンの王とその地を罰する。」

■北王国を滅ぼしたアッシリアが裁かれ、
南王国を滅ぼしたバビロニアも裁かれる。



❷透ける終末　民の帰還　50:19～20

わたしはイスラエルをその牧場に帰らせる。彼はカルメルとバシャンで草を食べ、エフライムの山とギルアデで満ち足りる。

その日、その時――【主】のことば――イスラエルの咎を探しても、それはない。ユダの罪も見つからない。わたしが残す者を、わたしが赦すからだ。」

■イスラエルが完全にきよめられるのは、メシア再臨後の千年王国。

➡バビロン捕囚からの帰還は、その影。

❷透ける終末　主による聖絶　50:21～23

「メラタイムの地、ペコデの住民のところに攻め上れ。彼らを追って、殺し、聖絶せよ。――【主】のことば――すべて、わたしがあなたに命じたとおりに行え。

その地には戦いの声、大いなる破滅。

全地を打った鉄槌は、どうして折られ、砕かれたのか。バビロンよ、どうして国々の恐怖のもととなったのか。

■破壊者だったバビロンは、

破壊されることで、国々の恐怖のもとに!!

バビロンの遺跡

❷透ける終末　主の罠　50:24～25

バビロンよ。わたしがおまえに罠をかけ、おまえは捕らえられた。おまえはそれを知らなかった。おまえは見つけられて捕まえられた。【主】に争いを仕掛けたからだ。

【主】はその倉を開き、その憤りの武器を持ち出した。それは、カルデア人の国での、万軍の【神】、主の仕事だ。

■主に戦いを仕掛けることとも知らず、
イスラエルを苦しめたことが、
バビロンが裁きを招く罠になった!!

バビロンの遺跡

❷透ける終末 刑罰の時　50:26～27

四方からそこに攻め入れ。その穀物倉を開け。これを麦束のように積み上げ、これを聖絶*して、何一つ残すな。

その雄牛をみな滅ぼせ。屠り場に下らせよ。わざわいだ、彼らは。彼らの日、その刑罰の時*が来たからだ。」

＊神による完全な破壊。終末に重なる。

＊終末の裁きに重なる表現

あちこちに終末を想起させる表現が!!

❷透ける終末　神殿の復讐　50:28～29

バビロンの地から逃れて来た者の声がする。シオンで、私たちの神、【主】の復讐のこと、その神殿の復讐のことを告げ知らせている。

バビロンに対して、射手を呼び集めよ。すべて弓を引く者を。これを囲んで陣を敷き、一人も　逃すな。その行いに応じてこれに報い、これが　したとおりに、これにせよ。【主】に向かい、イスラエルの聖なる方に向かって高ぶったからだ。

■バビロンへの主の裁きを知らせる帰還民。

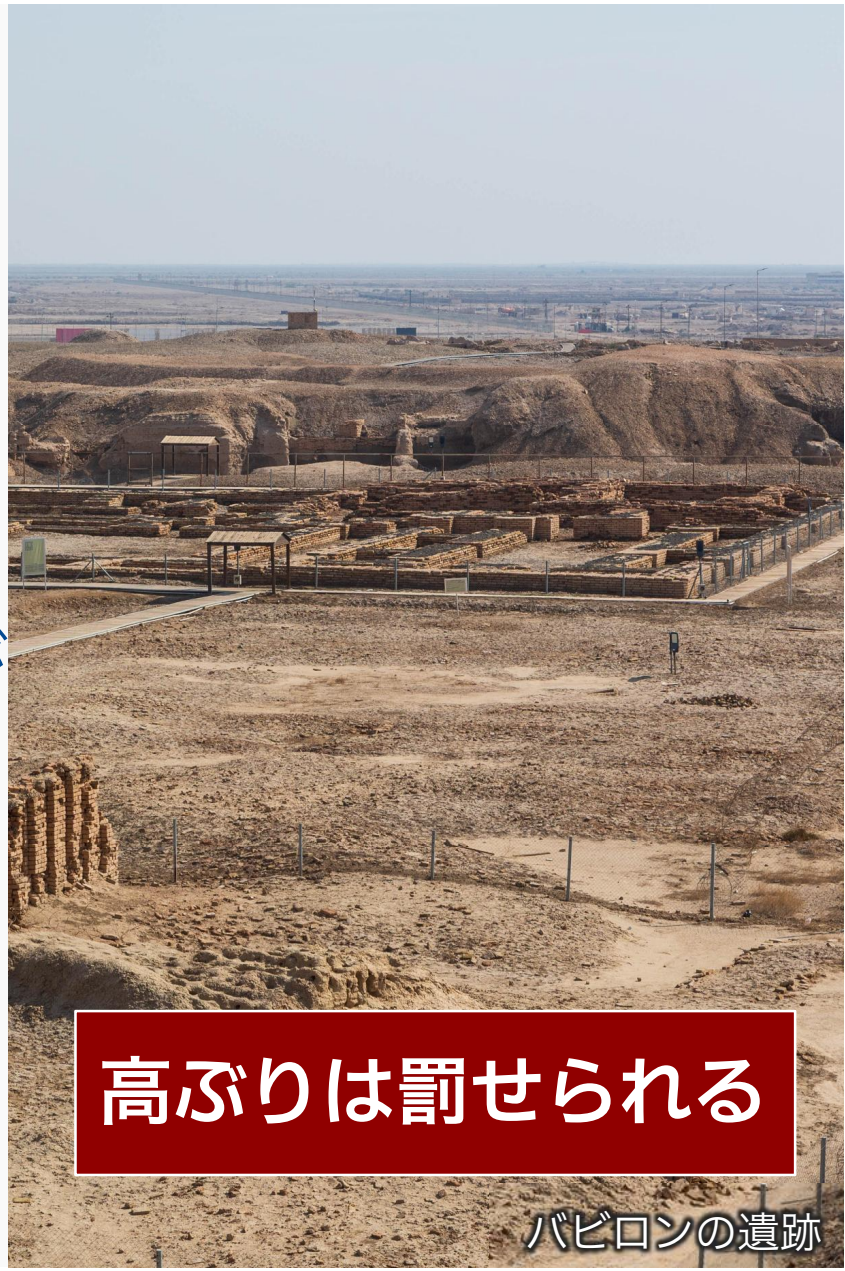
❷透ける終末　戦士の沈黙　50:30～31

「それゆえ、その日、その若い男たちは町の広場に倒れ、その戦士たちもみな、黙らされる。――【主】のことば――

高ぶる者よ。見よ、わたしはおまえを敵とする。――万軍の【神】、主のことば――おまえの日、わたしがおまえを罰する時*が来たからだ。

■神の裁きの日には、

誰しも恐怖の内に沈黙するしかない。



❷透ける終末　裁きの火　50:32～33

そこで、高ぶる者はつまずき倒れ、これを起こす者もいない。わたしは、その町々に火をつける。火はその周りのものすべてを焼き尽くす。」

万軍の【主】はこう言われる。「イスラエルの子らとユダの子らは、ともに虐げられている。彼らを捕らえて行った者はみな、彼らを固くつかんで解放することを拒んでいる*。」

＊70年の長きに渡ったバビロン捕囚。

➡その報いが一気に下る。

バビロンの浮彫

❷透ける終末　贖う方の名　50:34

彼らを贖う方は強い。その名は万軍の【主】。主は、必ずや彼らの訴えを取り上げて、その地を憩わせるが、バビロンの住民は震え上がらせる。

■解放されたイスラエルは神の下で憩い、バビロンは裁かれ、恐怖で震え上がる

➡千年王国に重なるイメージ

・主の再臨を喜ぶ民

・再臨の主に震え上がる民

バビロンの遺跡

❷透ける終末　下る剣　50:35～36

「剣がカルデア人に下り、――【主】のことば――バビロンの住民、その首長たち、知恵ある者たちに下る。

剣が易者たちにも下り、彼らは愚かになる。剣がその勇士たちにも下り、彼らは気をくじかれる。

■神の怒りの剣が、全バビロンの民の上に!!

知者は判断力を失い、

勇士は勇気を奪われる。

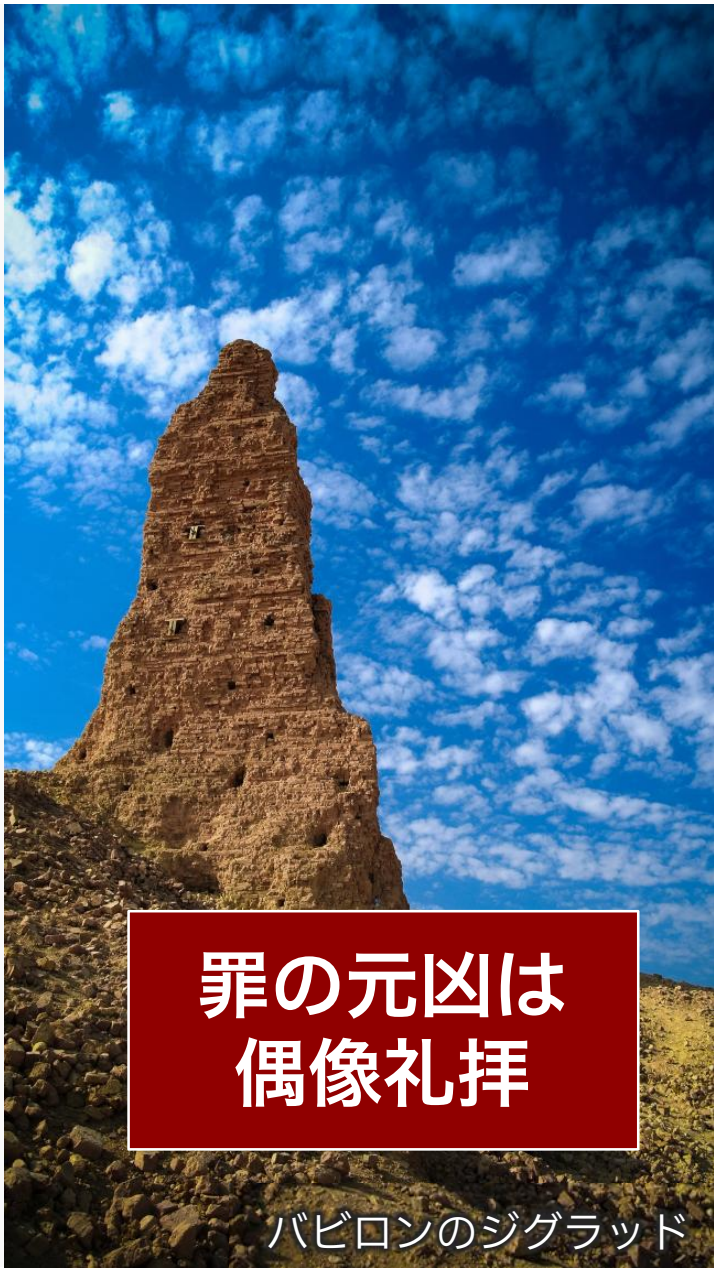
❷透ける終末　主の剣　50:37～38

剣が、その馬と車、そこに住む混血の傭兵*にも下り、彼らは女たちのようになる。剣がその財宝にも下り、それらはかすめ取られる。

日照りがその水の上に下り、それは涸れる。そこは刻んだ像の地で、偶像に狂っているからだ。

＊支配した様々な国々の傭兵

■神の裁きの剣は、バビロンの軍隊、財宝、バビロンの水源や全地に及ぶ。



バビロンのジグラッド

❷透ける終末　永久の廃墟　50:39～40

それゆえ、荒野の獣が山犬とともに住み、だちょうがそこに住む。もはや永久に、人は住まず、代々にわたって、住む者はいない。

神が、ソドムとゴモラと、近隣の町々を滅ぼしたように、―【主】のことば―そこには人が住まず、そこには人の子が宿らない。

■永遠に荒れ果てるバビロンの地

➡千年王国の間も、荒れ果てたまま

バビロンにもたらされる最悪の破滅

❷透ける終末　地の果てから　50:41～42

見よ、一つの民が北から来る。大きな国と多くの王が、地の果てという果てから奮い立つ*。

彼らは弓と投げ槍を固く握り、残忍で、あわれむことがない。その声は海のようにとどろく。娘バビロンよ。彼らは馬に乗り、一つとなって戦列を整え、おまえを攻める。

＊バビロン捕囚にも同じ表現が!!(エレ6:22)

➡イスラエルを滅ぼした報いが同様に!!

バビロンの遺跡

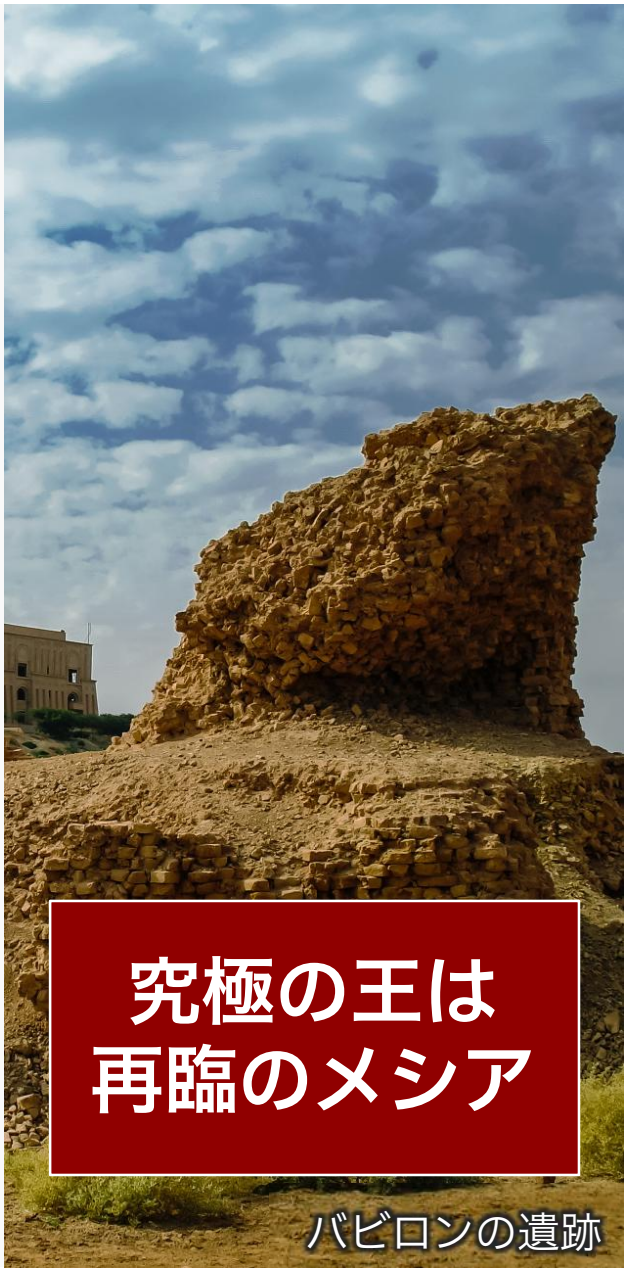
❷透ける終末　選ばれた人　50:43～44

バビロンの王は、彼らのうわさを聞いて気力を失い、苦しみが彼をとらえる。産婦のような激痛が。

見よ。獅子がヨルダンの密林から常に潤う牧場に上って来るように、わたしは一瞬にして彼らをそこから追い出し、選ばれた人*をそこに置く。だれがわたしのようであろうか。だれがわたしを呼びつけるだろうか。だれがわたしの前に立つことができる牧者であろうか。」

＊バビロンを滅ぼしたペルシアのキュロス王

➡究極的には、再臨のメシア



❷透ける終末　主の計画　50:45～46

それゆえ、聞け。バビロンに対して立てられた【主】の計画を。カルデア人の国に対して練られた策を。必ず、彼らは、群れの中の小さいものまで引きずって行かれ、必ず、彼らの牧場*は彼らのことで恐れ惑う。

バビロンが捕らえられる音で地は震え、その叫びは国々の間にも聞こえる。

＊バビロニアのすべての支配地域

バビロンの遺跡

終末のバビロンを待ち構える究極の滅びが!!

まとめと適用

❸再臨の主を待ち望みつつ

バビロンの遺跡

世の終わりのバビロンの裁き

■**大艱難時代の最後・大バビロンの破滅**　　黙示録14:7～8

彼は大声で言った。

「神を恐れよ。神に栄光を帰せよ。神のさばきの時が来たからだ。天と地と海と水の源を創造した方を礼拝せよ。」

また、その御使いの後にもう一人、第二の御使いが来て言った。

「倒れた、倒れた、**大バビロン**が。御怒りを招く淫行のぶどう酒を、すべての国々の民に飲ませた都が。」

バビロンは影　　本体は反キリストの大バビロン

まとめ　大バビロンとは？

- 世の終わりの大艱難時代、反キリストによって再建。

- 世界宗教の聖地。世界帝国の都。世界の富が集結地に。
  反キリストの像が建立。反キリストが神として崇められる。

- 反キリストが、イスラエル殲滅を企て、ハルマゲドンが勃発。
  イスラエルの民族的回心に応え、メシアが再臨。
  天の軍勢を引き連れ、反キリストと大バビロンを滅ぼす。

まとめ　大バビロンとは？

■世の終わりの大艱難時代、反キリストによって再建。

■世界宗教の聖地。世界帝国の都。世界の富が集結地に。
反キリストの像が建立。反キリストが神として崇められる。

■反キリストが、イスラエル殲滅を企て、ハルマゲドンが勃発。
イスラエルの民族的回心に応え、メシアが再臨。
天の軍勢を引き連れ、反キリストと大バビロンを滅ぼす。

再臨のメシアに裁かれる、あらゆる罪と悪の中心地

大バビロンとすべての罪人の裁き

■大バビロンと不信仰者への裁き　　黙示録14:9～11

また、彼らの後にもう一人、第三の御使いがやって来て、大声で言った。「もしだれかが獣とその像を拝み、自分の額か手に刻印を受けるなら、その者は、神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた、神の憤りのぶどう酒を飲み、聖なる御使いたちと**子羊**の前で火と硫黄によって苦しめられる。

彼らの苦しみの煙は、世々限りなく立ち上る。獣とその像を拝む者たち、また、だれでも獣の名の刻印を受ける者には、昼も夜も安らぎがない。」

神の子羊・メシアが、大バビロンに永遠の滅びを!!

まとめ　艱難のただ中にも残る希望

■**艱難期は恵みの時代のクライマックス**　黙示録14:13

また私は、天からの声がこう言うのを聞いた。

「書き記せ、

『今から後、主にあって死ぬ死者は幸いである』と。」

御霊も言われる。

「しかり。その人たちは、その労苦から解き放たれて

安らぐことができる。彼らの行いが、彼らとともについて

行くからである。」

主イエスの福音を信じて救われる者が、最後まで!!

適用　恵みの時代の　主の恵みをこそ　味わい知ろう

■バビロンへの裁きは、神の民にとっては解放の希望。
大バビロンの裁きは、神の国の究極の希望につながっている。

■主の再臨までの恵みの時代は、信仰者には試練と苦難の時代。
終末に向け、深まる闇の中で、救われる人々が起こされる!!

➡究極の苦難である艱難期は、最後の希望の時でもある

世の闇が深まるほど光を強める　主の約束の希望がある

今は、産みの苦しみの始まりの時代

■**主イエスの終末預言**　　マタイ福音書24:7～8

「民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、
あちこちで飢饉と地震が起こります。
しかし、これらはすべて産みの苦しみの始まりなのです。」

すでに起こった世界大戦。未曾有の大飢饉。
頻発し、増大する地震。
混沌の闇が深まる世界は、真の終末に向かっている。

そして、大艱難時代へ　マタイ福音書24:9～14

そのとき、人々はあなたがたを苦しみにあわせ、殺します。
また、わたしの名のために、あなたがたはすべての国の人々に憎まれます。
そのとき多くの人がつまずき、互いに裏切り、憎み合います。
また、偽預言者が大勢現れて、多くの人を惑わします。
不法がはびこるので、多くの人の愛が冷えます。
しかし、最後まで耐え忍ぶ人は救われます。
御国のこの福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての民族に証しされ、それから終わりが来ます。

ふさわしくない者に与えられるのが恵み

■「私は主にふさわしくない」

「私は主イエスのみからだなる聖なる教会にふさわしくない」

➡罪人である私たちには、当たり前の認識

裏切りの者のユダも、そう思って主に近づけなかった。

■問題は、認罪の先。打ち砕かれ、主の前にひれ伏すかどうか。

ふさわしくない私の罪を、主イエスは十字架で担われた。

主イエスの贖いの死と復活の、福音の恵みを噛みしめよう。

おそれと、喜びと感謝をもって、主の前にひれ伏すだけ

★　再臨の主を待ち望みつつ　★

■世の事に惑わされず、時代にピリオドを打つ主をおそれよう。

■艱難期も含めての恵みの時代。最後まである希望を胸に抱こう。
主は、救われるべき、すべての人を救い出してくださる。

■約束された神の国で与えられる栄光の確信を深めつつ、
御国にいたる救いの福音を宣べ伝えて行こう。

主をおそれつつ、希望をもって、世に遣わされよう!!

「天のお父さま。私たちの罪をゆるしてください
私たちは、神の御子、主イエス・キリストが、
①私たちの罪を贖うために十字架で死なれ、
②墓に葬られ、
③三日目に復活されたこと、を信じます。
全くふさわしくない罪人の私を、主があがなってくださいました。
感謝します。主へのおそれと喜びで、私を満たしてください。
世の闇がどんなに深まっても、主の光は輝きを増し続けます。
再臨の主を待ち望みつつ、希望をもって日々に遣わしてください。
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。　アーメン」